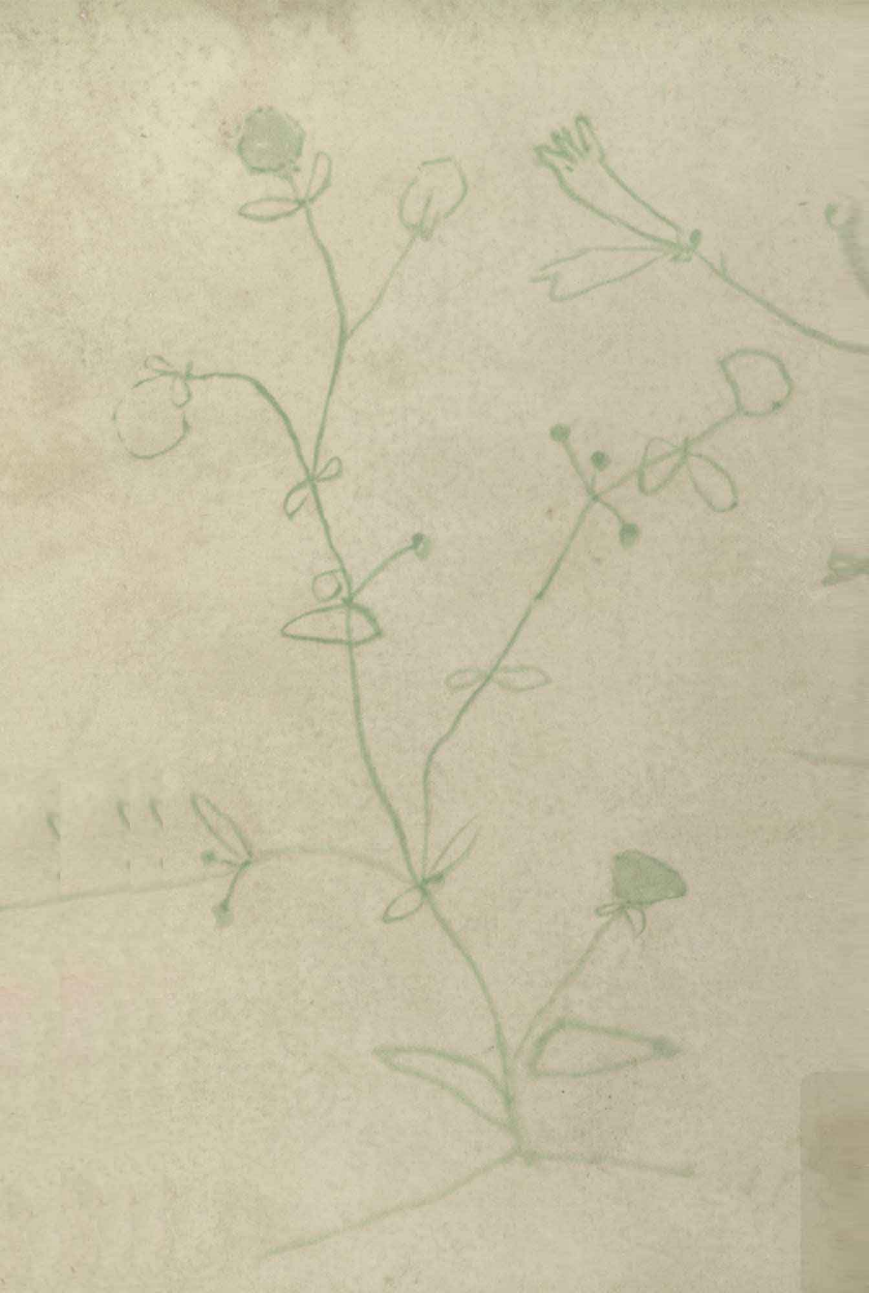

えり子とともに
第2部
¥ 150

昭和二十五年六月二十五日　印　刷
昭和二十五年七月　一　日　發　行
昭和二十五年九月　十　日　三版發行

著　者　内村直也
編　者　日本放送協會
發行者　東京都中央區槇町一ノ三　寶文館
代表者　大葉久治
印刷者　東京都新宿區山吹町三二　早坂善太郎
三惠社印刷所

發行所　東京都中央區槇町一ノ三
株式會社　寶文館
振替口座東京二八〇
電話京橋二五二五番

# えり子とともに

## 第二部

## あの山越えて

### 放送記録

| | |
|---|---|
| 企劃 | 堀江史朗 |
| 演出 | 永山弘 |
| 演出助手 | 秋山弘 |
| 音樂 | 芥川也寸志<br>シャンブル・ノネット |
| 効果 | 岩淵東洋男 |

放送年月日

昭和25年1月4日より3月29日迄、毎週水曜夜9時より9時30分迄(3月22日を除く)

配役

| | |
|---|---|
| 河村えり子 | 阿里道子 |
| 河村壯太郎 | 小澤榮 |
| 馨佳代子 | 七尾伶子 |
| 〃健兒 | 木下喜久子 |
| しめの | 渡邊富美子 |
| 栗本操(友達) | 加藤玉枝 |
| 久保田(學生) | 永井智雄 |
| 花屋の主人 | 村田正雄 |
| 花屋の若主人 | 宮口精二 |
| 耕作(しめのの夫) | 小杉義男 |
| きの(その母) | 高橋和枝 |
| 近山嚴(叔父) | 松本克平 |
| 太田朝子(伯母) | 村瀬幸子 |

# 目次

目立たない勇氣……一
母の候補者……一五
玩具の汽關車……三
鷗のうた……四九
變化の多い一日……五五
……安らかに眠れ……八三

日記を燒く……九九
秩父行……一二五
鳥も渡るか、あの山越えて……一三一
就職……一四九
無能力者……一六五
風立ちぬ……一八一
あとがき……一九七

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

# 目立たない勇氣

わかりきつたことは無視せよ　それは
明るい眼や
優しい心には値しないものなのだから

――ウイリアム・サロオヤン――

えり子
壯太郎
栗本　操
しめの

♣

テーマ音樂。

栗本　お目出とう、えり子さん、

えり子　あら、栗本さん、よくいらつしやつて下さつたわね。

栗本　覆年中は色々お世話になりました。一寸ご挨拶に……

えり子　厭な操さん、……あたくしの方こそ御禮にうかがわなければならないんだわ。

栗本　（笑つて）本當はね、えり子さん、今日は、母にたのまれた用事があつて外出したんだけど、割合に早く片附いたので、お宅へ伺つてみたのよ。

えり子　そう、でもよく來て下さつたわ。……さあどうぞ、お上りになつて。

栗本　お邪魔じやない？

えり子　なんだか他人行儀なのねえ。

栗本　だつて新年ですもの。

えり子　新年だからつて、別に他人行儀にしなければならないことは、ないでしよう。

栗本　お客樣でもいらつしやつてやしないかと思つてよ。

えり子　家のお客さまなんて、父の處へ來る學生さんぐらいのものよ。

栗本　小父さまは、ご健在？

えり子　えゝ、有難うございます。

栗本　お家にいらつしやるの？

えり子　えゝ、なんですか、書齋にとじこもつて……

栗本　伺つてよかつたわ。小父さまにもご挨拶出來て、

えり子　そんな處にぐず〳〵していないで、早くお上りになつてよ。

栗本　はいはい、

えり子　寒いといけないから、外套そのまゝでどうぞ……

栗本　今ね、歩いてきたんで、暑いくらいだわ。

晉樂　時間と場所の移動の表現。

栗本　えりちやんのお部屋、とても綺麗になつたわ。

えり子　だつて大掃除したんですもの。せめて自分の部屋ぐらいはと思つて、ばあやさんに手傳つて貰わないで、獨りでやつてみたのよ。本箱から、ガラスふきまで……、とても氣持がいいの。しようと思えば、なんでも出來るんだなあつて、思つちやつたわ、……（改まつて）明けましてお目出とうございます。どうぞ、今年もよろしく御指導願います。

栗本　よろしい。指導してつかわす。……なんて嘘々！……

えり子　もうやめたんじやないの、そんな他人行儀は。あたくしね。……本當に今年は操さんに御指導して頂きたいと思つてるのよ。

栗本　なに冗談云つてるのよ。

えり子　冗談じやないの、本當なんですもの。操さんは我がクラス會のリーダーなんですもの、リーダーとしての義務がある筈よ。

栗本　厭々々。そんなこと仰有るんなら、あたくし、逃げて歸る。

えり子　もう逃がさないわよ。此のお部屋にお入りになつた以上。（笑う）

栗本　（笑つて）リーダーなんて、あたくし厭なのよ。偉そうなことを云つてしまつて、あとになつて自分がとても、空虛なものを感じるんですもの。……もう今年のリーダーはどなたかに代つて頂くわ。

えり子　そんなこと仰有らないで、もう少し、おやりになつてよ。ね、お願いいたします。……月給は幾ら差上げましようか？

栗本　うん、そうだな、……まあ百萬圓ぐらいなら、……

（二人、噴き出す）

えり子　眞面目な話……、

栗本　駄目よ、あなたがいくら深刻な顏をなさろうとしたつて、そのエクボが始終ニコニコしてるんですもの、……

ねえ、えり子さん、お互に、二十二……隨分年をとつてしまつたものね。

えり子　そうなのよ。それを考えると、本當にあたくしもボヤボヤしていられないつて氣持になるのよ。

聖本　如何なる神のいたずらぞや。今年に限りて、神は我等を若返らせ給えり。神は、我等をあわれみ給うて、いま暫し、ボヤボヤしていてもよろしいとの御心ならんや。

（二人、笑う）

えり子　あたくしね、大晦日に大決心をしたのよ。自分のことは全部自分でしましようつて。そして、それを父やばあやさんの前で宣言したのよ。……そうしたらね、ばあやさんが不服そうな顏をしてね、

音樂　回想を示すもの。

しめの　そうすると、お食事も、御自分の分だけ、御自分でなさるんですか？

えり子　……つて云うのよ。あたくしは、そんなつもりで云つたんじやないんだけど、父がそれを聞いて面白がつてしまつてね。

壯太郎　うん、それがいい、それがいい。來年からそういうことになるのだとすると、わたしは、しめのの御馳走とえり子の御馳走と兩方が喰えることになる。

しめの　それは、旦那樣、不經濟つてものでございますよ。……若しもえり子お嬢さまがなさるつて仰有るんなら、あたしはお臺所を開け渡しますよ。

壯太郎　うん、それも亦面白かろう。つまりばあやの提案は、一日交代にやるつてことなんだね。

しめの　いいえ、そうじやございません。全部して頂くんでございます。

壯太郎　ほほお、するとばあやは、それでなにをしようつて云うんだい？

しめの　そうでございますね、……あたしは、ピアノを奏いて歌を歌つております。

壯太郎　（笑う）

えり子　ばあやさん、どうしたの、怒つたの？

しめの　えゝ、怒りましたよ。

えり子　あたくしね、ばあやさん、お食事のことなんか云つてるんじやないのよ。

しめの　いゝえ、お食事に限らずでございますよ。お洗濯にしたつて、お嬢さま、あなたがなさると、石鹸を無駄に澤山お使いになつてしまうし、コロちやんのお世話だつて、なさるんだかなさらないんだか中途半ばで、ばあやは却つてやり難くて困つてるんですものね。

壯太郎　おいおい、えり子、こりやお前蠍蛇だぞ。

えり子　ねえばあやさん、こんな大晦日にかためてそんなこと云い出さないで、普段氣のついた時に、えり子に敎えて頂戴よね。

えり子　（現在に戻つて）嬸さん、そう云つたのよ。……でもね。ばあやさんにまで全然信用ないのかと思つたら、あたくし、少し悲しくなつてしまつたわ。

栗本　むずかしいでしようね。こういうお家で、新しいことをしようとするのは……。

えり子　ばあやさんていい人なのよ。とてもいい人なの。母の時からずーつといてくれた人なので、家の中のことは全部知つてるでしよう。あたくしをいつまでも、子供のような氣がしているんだわ。

栗本　えり子さんをあんまりかばい過ぎるのね。

えり子　そうなのよ。いけないいけないと思いながらも、今まではそれに甘えてきてしまつたの。でも、今年からは、あたくし、もうそれじや本當にいけないと思つて、決心したのよ。

栗本　ばあやさんと衝突しないように、おやりにならなくちやあね。

えり子　そうなのよ。

栗本　どこのお家にだつてそういう物はあるんだと思うわ。うちの會社にだつて澤山あるわ、そういうものが……。

えり子　そうでしようね。……あたくし、なんだかこの頃にな

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

つて少しづつ分りかけてきたような氣がするのよ。……なにが分りかけてきたのかつて云われると一寸困るんだけど……。目の前に色んなものがあるでしよう、その色んなものの中に在る自分てものが……。

栗本　そうよ、それが人生つてものなんだわ。

えり子　そうね、人生つてものなのかも分らないわね、……その色んな障害物にまけてしまわないようにしておくのには、勇氣が必要ね。

栗本　勇氣とそれから、强さじやないかしら。やつぱり、正しいと思えることは、積極的にしようとしなければいけないのね。そうでないと、いつまでも同じ處にいて、同じことを繰り返してることになつてしまうんですものね。

えり子　あたくしね、大晦日の晩にばあやさんに眞先に反對されてしまつたんだけど……、でも大丈夫なのよ。今年からは、あたくし、生れ變つた人間のつもりで、一生懸命なんでもしてみようと思つてるの。

栗本　ねえねえ、えり子さん、その計画の中に「戀愛・結婚」つて條も入れてお置きになつたら？

えり子　あらそれは、栗本さんの計画に入つてることなんじやないの？

栗本　ふふ、あたくしは勿論よ。……だけど戀愛なんて、チヤンスですものね。お相手が見付からなければ出來ないから、これは計画通りに行くかどうか分らない譯ね。

えり子　そうなのよ。……あたくしね、操さん、今年はそれよりももつと大きな計劃があるの。

栗本　それよりももつと、大きな計劃？……さあ、なんでしよう、そんなものがあるかしら？

えり子　えゝ、あるの、あたくしには。

栗本　……分らないわ。

（第十回の錄音）

音樂　高潮して入る。

壯太郎　えり子、お前、お母さんが欲しくないかい？

えり子　いゝえ、欲しくありません。

壯太郎　えり子、わたしは近頃しみじみとそのことを考えるんだが……娘にはやつぱりなんと云つても優しい母親が必要だよね。

えり子　お父さま、あたくし、お母さまは一人で澤山よ。

壯太郎　いやその氣持は、お父さんには分らないわけじゃないさ。それが分つていたから今日までこうして來たのだがね……しかしね、えり子、わたしだつて、このごろになつて、なんだか背中の邊りに、すーうと隙間風が入つてくるような氣持になることがあるんだ。

えり子　え？　お父さまが……お父さまが……そんなことないわ。そんなことないわ。お父さまに限つてそんなこと……、

えり子　（現在に戻つて）お父さまのお話をうかがつた時あたくしね、とてもいやだつたの。その場にいられなくなつて、家の外へ駈け出してしまつたわ。……

栗本　わかつたわ。えり子さんにはそういう重大問題があつたのね。

えり子　いまでも厭なのよ。考えれば考えるほど厭なのよ。だからあれからは一度もあのことに就いては觸れないできたんだわ。

栗本　小父さまの方からも、お話しにならないの？

えり子　ええ。あたくしの氣持が分つてるから、きつと云えないのだろうと思うんですけど……。父とたつた二人で、こうして生活していて、一番大切な事にお互に觸れないでいるつてことは、悲しいことだわ。……父もきつとそうだと思うんですけど、あたくしは話さなければいけない、話さなければいけないつて始終考えてるのよ。ところがそう考えれば考える程、なんとなく云いそびれてしまつて、今日まで來てしまつたの。……いつも此の胸の上に荷物が乘つかつているような氣持なの。……ねえ、操さん、人間て、追憶だけじやどうしても生きられないものなのかしら。あたくしには、美しい母の追憶だけあれば、それでもう充分なのよ。母はいつだつてあたくし

の心の中にちやんと生きてるんですもの。

栗本　あなたはそれでいゝとして、小父さまの場合はどうなのかしら？　小父さまもあなたと同じ氣持だと假定するわね。ところが小父さまはあなたの本當の氣持が分らないので、あなたが可哀そうだから、お母さまを貰つてあげようつてお考えになつてるかも分らないわね。

えり子　そんなことはないと思うわ。父にはあたくしの氣持はよく分つてる筈だわ。

栗本　筈だつてあなたは仰有るけど……だつて、そのことに就いてはまだお話ししたことがないつて、いまおつしやつてよ。

えり子　……ええ、あれ以來話したことはないわ。でも充分分つてる筈なんだけど……。

栗本　……（姉さんらしく）ね、勇氣を出すのよ、えり子さん。……それがあたくし達にとつて、いま必要になつてきてるんだと思うわ。

えり子　……勇氣つて、口で云つてしまえば簡單だけど、實行するとなると、むずかしいものだわ。

栗本　そうね、それが勇氣なんじやないかしら？……人の惡口を云つたり、喧嘩をしたり、戰爭をしたりするのが勇氣じやないわ。……あたくし達に必要な本當の勇氣はもつと目立たない、じつくりしたものなんだと思うわ。……なんて偉そうなことを云つてしまつたけど、あたくしがあなたの立場に立つたら、それだけの勇氣が出るかどうか、分らないわ。どんなにそれがむずかしいことだか、あたくしにも少しわかりかけてきたような氣がするのよ。……だけど、むずかしければむずかしいだけに矢つ張りしなければいけないことだと思うわ。

えり子　本當にそうなの。操さんの仰有る通りだと思うわ。……してみるわ、勇氣を出して。……してみるわね、勇氣を出して。（二度目の言葉、フェイド・アウト）

音樂　クロス・フェイドして入つてくる。かなり長く續いて、それが雪の降る描寫に變つて行く。

しめの（オフ・マイクより）旦那さま、雪が降つてまいりましたよ、雪が。

壯太郎　うん、そうか。……どうも今日の寒さは、少し變調だと思つたよ。

しめの　おこたの火は、大丈夫でしようか？

えり子　えゝ、迚も溫かいわ。……ばあやさんも早く片附けて、こつちに來ない？

しめの　ええ、ええ、有難うございます。……あたしは寒さ知らずですからね、此のぐらいのことでしたら平氣でございますよ。（フエイド・アウト）

壯太郎　今日みえた栗本さんて人は、はきはきした仲々氣持のいいお孃さんだね。

えり子　あの方とても偉いのよ。學校もよくお出來になつたしお家のこともよくなさるの。

壯太郎　お勤めに出ていたのだつたね？

えり子　えゝ、保險會社へいつてらつしやるの。

壯太郎　ふーん、そうか。……おい、えり子、その本箱のいち番下の段から「鉢の木」を取つてくれ。……雪と聞いたら、ちよつとやつてみたくなつた。えり子もついて謠わないか。

音樂

「謠」「行くへ定めぬ道なれば、行くへ定めぬ道なれば、來し方も何處ならまし」からはじまつて、「あ、あ降つたる雪かな。いかに世にある人の面白う候らん。それ雪は鷺毛に似て飛んで散亂し、人は鶺鴒を著て立つて徘徊すといへり。されば今降る雪も、もと見し雪にかはらねども、我は鶺鴒を著て立つて徘徊すべき」にまで至る。（此の間かなりな時間をとる事）

壯太郎　……どうも駄目だ、稽古をしてないから續かない。

えり子　此のお謠は隨分長いんでしよう、お父さま。

壯太郎　うん、終りまでしたら此の雪も大分積つてるよ。
えり子　……お父さま、
壯太郎　うん？
えり子　もうお話はおやめになる？
壯太郎　あゝ、やめるよ。
えり子　ほかのお話をしてもいい？
壯太郎　あー、いゝとも。
えり子　ねえ、お父さま、あたくしお父さまに悪いことをしてしまつたと思つてることがあるの。
壯太郎　なんだ、えり子。……わたしの原稿を何處かへなくしてしまつたのか？
えり子　いゝえ、そんなことじやないの。
壯太郎　學校のことかな。……學校から何か通知でも來ていてそれをお父さんに云い忘れたとでもいうのかね？
えり子　いゝえ、そんなことじやないの。
壯太郎　……分らんね、さつぱり。
えり子　……いつか、お父さまがせつかくあのお話をなさろうとした時に、あたくし、出ていつてしまつたでしよう、……聞こうともしないで。
壯太郎　あの話ついうと、なんの話だ？
えり子　……お忘れになつてしまう筈はないわ。……あたくしお父さまに對して、いけないことをしてきたと思つてるの。……（感動している）御免なさいね、お父さま。
壯太郎　なんのことやら、さつぱり見當がつかん。
えり子　本當にもうお忘れになつていらつしやるの？
壯太郎　うん、分らない。
えり子　……（自分獨りで、無聲音）忘れておしまいになる程輕い意味で仰有つたのかしら？　それだつたらば……もうこんな話は持ち出さない方がいゝんだわ。
壯太郎　おい、えり子、なにかお前は大犯罪でも犯しているような顔をしておるぞ。
えり子　（無聲音）あのお顔、……お父さまは分つていて、分らない風をなさつてるんじやないのかしら？
壯太郎　お父さんの健忘性は、いま始まつたことじやないもの

ね。そうかと云つて、生れつきつて譯でもなさそうだ。傘を忘れ帽子を忘れ、カバンを忘れて行くうちに次第に忘れるということから起る有形無形の損失といつたことに對する感覺が鈍くなつてきているんだな、つまり。

えり子　（無聲音）あゝ、お父さまは分つていらつしやるんだわ。分つていらつしやつてそれを又、冗談にしてしまおうとなさつてるんだわ。……お父さまはお厭なのかしら？　したくないのかしら？

壯太郎　此の病氣がひどくなつてくると、忘れることが、一つの道樂になるんだそうだ。或は快感といつたほうがいゝかもしれない。機械文明が高度に發達してくると、物を忘れて喜んでる人間が澤山出てくるそうだ。

えり子　（無聲音）いゝえいけない、云わなくちやいけない。云わなくちやいけないんだわ。

栗本　（無聲音）えり子さん、勇氣を出すのよ。……あたくし達に必要な本當の勇氣は、目立たない、じつくりしたものなんだと思うわ。……えり子さん、勇氣を出すのよ。

えり子　お父さま、

壯太郎　なんだ？

えり子　お父さまは、……「うちの中に毎日いて貰わなければならない人は誰か、それはお母さんだ」つて、お思いにならない？　（此の臺詞、非常に早く一息に喋る）

壯太郎　ええ、なになに？　なにがお母さんだつて？

えり子　（今度は、落ついて緩り云う）「うちの中に毎日いて貰わなければ困る人は誰か、それはお母さんだ」つてお思いにならない？

壯太郎　ふーん、そのことだつたのかね。

えり子　お父さま、矢つぱり分つてらつしやつたんでしよう？

壯太郎　まさかお前の方から云い出そうとは思つていなかつたのでね。

音樂　靜かに始まる。……裏に。

壯太郎　（靜かに）實はね、お父さんはもう當分は、お前には

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo